

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972501035		
法人名	特定非営利活動法人フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者グループホーム愛里須		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子乙4402-2		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に対し職員全員が真心で接し、利用者が一日一日を充実して生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは町中心部の周囲を学校や住宅地等に囲まれた静かで利便性の高い場所に位置している。愛あふれる、ふる里・那須からホーム名である愛里須と名付け、法人理念である「人を尊重し、人に感謝をし、人に真心で接する」の下、入居者が住みなれた地域の中で家庭や家族の様な支援を行っているために、職員は入居者一人ひとりの思いを大切にしながら、利用者本位の支援に取り組んでいる。地域との交流の他、日々の食事や外出支援等も家庭生活の延長と捉え、生活に喜びや張り合いを持たせるものとして、積極的に取り組んでいる。また、入居者の高齢化や重度に伴う終末期支援においても、本人や家族からの希望に応じながら、看取りまで対応できる体制もできており、終の棲家として安心して生活が送れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有することにより職員全員意欲的に実践している。	法人理念の下、ホームを家庭、利用者と職員は家族と捉え、職員は入居者に寄り添いながら、入居者が住み慣れた地域の中で本人本位の支援に取り組んでおり、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃のあいさつに始まり、地域の一員としての姿勢で交流している。	ホームでは地域密着型サービス事業所として地域との交流には特に力を入れており、日ごろから近隣住民との交流や地域行事への参加、ボランティアの受け入れや事業所行事には、家族や地域住民にも参加を呼びかける等、地域に開かれた施設として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽な相談をはじめ、積極的に活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの貴重な意見を活かしている。	運営推進会議は入居者家族代表、町職員、民生委員、自治会関係者等の参加により、2ヶ月毎に開催している。会議ではホームからの利用状況や行事等の報告事項の他、参加者からの助言や意見交換も行なわれており、地域との交流促進や入居者へのサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	那須町のために積極的に取り組んでいる。	町職員とは運営推進会議の参加時等に制度上の相談やホームの運営や入居者の支援状況等を把握してもらっている。また、内部研修会における講師を務めてもらっている等、町との連携を深めながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	真剣に取り組んでいる。	身体拘束や虐待防止に向けたマニュアルを作成しており、内部研修等により職員への周知に努め、入居者の安全に配慮しながら身体拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関等は職員の見守りやさりげない声かけ等により施錠の無い、本人の自由な活動が確保されている。	

認知症高齢者グループホーム愛里須

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	細心の注意を払い、努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持てるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場に立って図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が来られた機会に意見等を聴くよう努めている。	家族の来所時や電話、写真を添えた手紙により毎月本人の状況を知らせると共に、意見や要望の確認にも努めている。また、家族代表が参加している運営推進会議時において出された意見や要望等は、職員間で共有しながら検討を行い、業務の改善やサービス向上に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や日頃の打ち合わせで積極的に意見を聴いている。	職員は日常業務や毎月の職員会議等において、管理者やユニットリーダーに意見や提案を行なう機会が設けられている。勤務形態や設備面の不具合、ヒヤリハット等について話し合わせ、支援方針等の情報が職員間で常に共有される様になっており、入居者へのサービス向上や職員の働きやすい環境づくりに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長、施設長が常日頃から職場の環境に注視している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得などを支援している。		

認知症高齢者グループホーム愛里須

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設との交流も増えてきており、サービスの質の向上につなげていきたい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりとアセスメントをし、本人が不安を感じさせないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりとアセスメントをし、家族等が不安を感じさせないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を見間違わないよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの性格を十分に発揮し、良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームの性格を十分に発揮し、良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく途切れないよう努めている。	本人や家族から生活歴や趣味趣向等の情報を基に本人の思いを察してアセスメントシートを作成し、入居者の昔馴染みの店での買い物や飲食等、以前に住んでいた場所への訪問を行っている。また、知人等にはホームへの来所の呼びかけ等、馴染みの関係が継続出来る様な支援に極力努めている。	

認知症高齢者グループホーム愛里須

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性も考慮し努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了した家族に応援していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人第一に考えている。	職員は入居者一人ひとりの思いを大切にしており、常に寄り添い、同じ時間を共有することで、本人の仕草や表情から思いや意向の把握に努めている。意向の表示が困難な場合には家族からの情報等を参考に、一人ひとりの思いや意向を探りながら本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人本位のために努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員で努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	さらに職員間でも話し合いを持ち作成している。	介護計画は本人及び家族からの要望を確認し、本人の生活能力等を見極めながら、職員からの意見・情報を持ち寄って策定している。計画は定期的なモニタリングにより達成状況等の確認が行なわれ、半年毎の見直しを行なっているが、状態等に変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分活かしている。		

認知症高齢者グループホーム愛里須

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最適なサービスの提供のために取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源にも目を向けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望通りの受診を実践している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、往診をしてくれる協力医にかかりつけ医を変更する入居者も多い。原則として通院は家族にお願いしているが、協力医への通院は職員が付き添う場合もある。どちらの場合も、入居者の健康状態や受診結果、服薬類の情報は家族とホームで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職との連携が良く機能している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は密に病院側と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	共有できるように努めている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針が出来ており、入居時に家族等からの要望を確認し、ホームの方針を説明したうえで同意書を作成している。また、入居者の状態に応じた話し合いも行なわれており、常に家族とは支援方針の共有に努め、職員へもホームの方針の把握や終末期ケアを学ぶ機会を設けている。本人及び家族から希望により、主治医や看護職員との連携の下、看取りを行った事例もあり、職員がホームの方針の把握や終末期ケアを学ぶ機会も設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うよう努める。		

認知症高齢者グループホーム愛里須

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練、避難訓練を通じ、常に身につけ、役場や消防署との協力関係を築いている。	消防署員立会いによる年2回の消防防災訓練の他、夜勤者と宿直の2名体制での火災時を想定し、消火や避難手順等を確認する模擬訓練を毎月実施している。全職員がマニュアルを把握し、夜勤時の訓練を経験して、有事の際には迅速に対応できる様になっている。災害時における地域への協力依頼は運営推進会議等を利用して行っている。	今後、災害時における地域との協力体制の構築や入居者数も多いことから大規模災害に伴うライフライン等の寸断を想定した水や食料、燃料等の確保における検討も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあるとおり、しっかりと対応している。	職員は年長者である入居者一人ひとりの人格や尊厳を尊重し、プライバシーにも配慮した支援に取り組んでいる。馴染みの関係にあっても言葉使いや介助等における声かけは注意を払っている。個人情報に記載された書類は事務室内等の書庫にて適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全員がしっかりと働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人本位で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望優先でおしゃれに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしていただいております、進んで参加していただいております。	献立は調理担当職員が栄養バランスやカロリー、季節の旬の食材等を取り入れながら作成している。入居者は職員と一緒に食事の準備や片づけをしている他、職員も一緒に会話を楽しみながら同じものを食べている。誕生会等の行事食や手作りおやつ等を取り入れながら、食事が楽しめるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おいしさとともに気を配り、十分に実践している。		

認知症高齢者グループホーム愛里須

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康にも影響があることを念頭に十分に支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康・身体状況を考慮しながら支援している。	個々の排泄パターンの把握に努め、タイミングを見計らった誘導や声掛けを行ない、出来る限りトイレでの自立した排泄支援に取り組んでいる。失禁等の場合には、本人の羞恥心等に配慮し、他者に気付かれない様、さりげなくトイレや自室に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	心理状態にも影響があることなので真剣に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべくそのように支援できるように努める。	希望する場合には毎日でも入浴できるようになっているが、本人の体調や希望により概ね週2~3回の入浴が多い状況にある。入浴の順番や時間等は本人の希望に出来る限り沿うようにしており、入浴に拒否傾向がある人にはタイミングや声掛け等を工夫しながら無理強いない支援をしている。同性介助も本人の希望により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムを尊重して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職の指導のもと、介護職も全員確実に実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションなどで支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出には積極的に支援している。	外出支援には特に力を入れており、日常的にホームの広い庭や近隣への散歩の他、買い物や外食、周辺観光地等には定期的に出かけており、入居者の希望や職員からのアイデアにより外出先を選定している。	

認知症高齢者グループホーム愛里須

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なるべく現金は所持しないでも安心していただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛里須独自の雰囲気があり、快適に過ごされている。	共用空間は木材が多用された温かみと開放感のあるい場所であり、窓からは明かりが十分に差込み、廊下等の壁面には季節感を活かした飾りつけが行なわれている。各ユニット間は自由に行き来ができるようになっており、入居者は日中のほとんどをソファや小上がりの畳スペース等で職員や入居者同士で寛ぎながら会話を楽しみながら寛ぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分に実践している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もう少し配慮する余地がある。	居室は今までの暮らしと違和感が無い様、本人や家族へ使い慣れた物や馴染みの品々の持込みを促しており、各々に家具類や家族の写真等が持込まれ、居心地良い居室がつくられている。ホームでは共有空間で他入居者と過ごす時間を大切にしており、居室に籠ってしまう事が無いよう、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に実践している。		